

令和6年度(2024年度)東海市健康づくり推進会議 第2回会議次第

日時：令和6年(2024年)10月31日(木)

午後2時～午後3時30分

場所：しあわせ村健康ふれあい交流館

多目的ホール(1階)

1 あいさつ

2 議題

令和6年度(2024年度)主な事業の実施状況について

3 その他

(1) 第3次東海市健康増進計画について

(2) 今後の会議予定

第3回：令和7年(2025年)2月13日(木) 午後2時から

4 閉会

令和6年度（2024年度） 主な事業の概要

施策名	4-1-① 自分の体をメンテナンスできる人を増やす																				
令和5年度の 施策評価	新型コロナウイルスの影響がなくなり受診割合は保持されている。受診率の向上のために受診勧奨を対象者別に送り分けをR4年度より行っているが、未受診者受診勧奨後の受診率はR3年度と比較し毎年約2%ずつ向上しており、効果が得られている。 ●受診勧奨後の受診率の推移(参考) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>受診勧奨対象者</th><th>受診者（2月）</th><th>受診率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>R3</td><td>7612 人</td><td>718 人</td><td>9.4%</td></tr> <tr> <td>R4</td><td>6880 人</td><td>774 人</td><td>11.2%</td></tr> <tr> <td>R5</td><td>6627 人</td><td>892 人</td><td>13.5%</td></tr> </tbody> </table> ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施期間を変更（9月～2月）して実施した また、今年度より特定保健指導の初回面接を公立西知多総合病院で健診当日に実施し、6月～9月は対象者79名中42名（53.2%）が面接を実施されており、効率的に生活習慣病予防の指導を受ける機会を提供できている。	年度	受診勧奨対象者	受診者（2月）	受診率	R2				R3	7612 人	718 人	9.4%	R4	6880 人	774 人	11.2%	R5	6627 人	892 人	13.5%
年度	受診勧奨対象者	受診者（2月）	受診率																		
R2																					
R3	7612 人	718 人	9.4%																		
R4	6880 人	774 人	11.2%																		
R5	6627 人	892 人	13.5%																		

事業名等	健康診断受診勧奨事業
今年度の 取り組み （現状）	市内医療機関、市内商業施設等でのポスター掲示や、チラシの設置を依頼して健診受診啓発を行い、対象者全員に個別受診勧奨している。健診は6月から10月にかけて実施の上2月に追加実施予定である。特定健診未受診者に対しては、特性を人工知能を用いて階層化し、対象者ごとに受診行動に結びつきやすい受診勧奨個別通知を行う。（1月に受診勧奨し2月中の受診を促す予定）また、16歳から39歳を対象としたフレッシュ健診を市内医療機関で実施している。 広報、メディアスFM放送、お口と体の健康イベントにおいて禁煙、健診受診、健康増進の普及などについての周知啓発を実施している。

上半期の活動結果	特定健診受診者数 （ ）内は令和 5 年度 6 月 929 人（ 706 人） 7 月 909 人（ 1,083 人） 8 月 767 人（ 748 人） ●特定健診受診率の推移(参考) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>対象者</th><th>受診率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td><td>15,284 人</td><td>49.7%</td></tr> <tr> <td>R2</td><td>14,932 人</td><td>48.0%</td></tr> <tr> <td>R3</td><td>14,944 人</td><td>48.0%</td></tr> <tr> <td>R4</td><td>14,282 人</td><td>49.6%</td></tr> <tr> <td>R5</td><td>13,344 人</td><td>50.1%</td></tr> </tbody> </table>	年度	対象者	受診率	R1	15,284 人	49.7%	R2	14,932 人	48.0%	R3	14,944 人	48.0%	R4	14,282 人	49.6%	R5	13,344 人	50.1%
年度	対象者	受診率																	
R1	15,284 人	49.7%																	
R2	14,932 人	48.0%																	
R3	14,944 人	48.0%																	
R4	14,282 人	49.6%																	
R5	13,344 人	50.1%																	
課題と今後の取り組み	今後は国保加入時やレセプトなしの層など、比較的若年層と考えられる対象への未受診勧奨通知の送り分けをより細分化して行い、受診動機づけを強化していきたい。また、医療機関等と協働し特定保健指導利用率向上の取り組みを継続していく。 喫煙については、市内の公共施設は敷地内禁煙としている。イベント等でCOPD予防啓発を行う																		

令和6年度 主な事業の概要

施策名	4-1-② 壮年期をがんから守る
令和5年度の施策評価	昨年度と比較して、胃がん、乳がん、子宮頸がんのいずれも検診受診率は減となった。がん精密検査受診率は胃がんを除き減となった。 生活習慣病の予防やがん等の早期発見・早期治療につなげるため、検診を受けることは重要であり、今後ともがん検診の受診率の増加に向け、利便性の向上及び啓発活動等を継続する必要がある。

事業名等	受診勧奨事業																																				
今年度の取り組み（現状）	令和6年度からは胃がん検診の受診率向上を目的として従来のバリウム検査に加えて胃内視鏡検査（2年に1度受診可能）を選択できるようにした。 市内医療機関等にごがん検診受診勧奨ポスターを掲示するとともに、若年層の受診率向上を目的に市公式 LINE を用いてがん検診の定期的な受診勧奨を実施する。また、お口と体の健康イベントでがんクイズを実施した。																																				
上半期の活動結果	・受診者数（8月末現在）（単位：人） <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>胃（※）</th><th>大腸</th><th>子宮</th><th>乳</th><th>胃リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td><td>628</td><td>3,169</td><td>1,005</td><td>1,201</td><td>143</td></tr> <tr> <td>R6</td><td>633</td><td>2,961</td><td>1,204</td><td>1,125</td><td>126</td></tr> </tbody> </table> （※）胃内視鏡含む ・無料クーポン利用者（8月末現在）（単位：人） <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>胃（※）</th><th>大腸</th><th>子宮</th><th>乳</th><th>胃リスク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td><td>130</td><td>297</td><td>275</td><td>305</td><td>143</td></tr> <tr> <td>R6</td><td>93</td><td>252</td><td>215</td><td>258</td><td>126</td></tr> </tbody> </table> （※）胃内視鏡はクーポン未実施	年度	胃（※）	大腸	子宮	乳	胃リスク	R5	628	3,169	1,005	1,201	143	R6	633	2,961	1,204	1,125	126	年度	胃（※）	大腸	子宮	乳	胃リスク	R5	130	297	275	305	143	R6	93	252	215	258	126
年度	胃（※）	大腸	子宮	乳	胃リスク																																
R5	628	3,169	1,005	1,201	143																																
R6	633	2,961	1,204	1,125	126																																
年度	胃（※）	大腸	子宮	乳	胃リスク																																
R5	130	297	275	305	143																																
R6	93	252	215	258	126																																
課題と今後の取り組み	社会保険加入者が増加していくなかで、職場や行政の検診受診率向上に向けた啓発活動の方法について検討する必要がある。 令和7年度からは、特定健診の個別通知にごがん検診受診勧奨の案内を同封することで、無料クーポン対象外の方への啓発を進める。																																				

令和6年度 主な事業の概要

施策名	4-1-③ おいしく食べ、おもいきり笑えるお口をつくる
令和5年度の施策評価	小学校5校の児童に歯垢の染色をし、歯みがき指導を行った。また幼稚園・保育園の年長児、小学校のフッ化物洗口を継続実施した。 若年層の歯周病検診の受診率が低いことから、行動変容に繋がる歯科受診勧奨動画（愛知県作成）をホームページに掲載した。 高齢期では、介護予防事業において30の市民団体に健口体操を実施する支援を行い、オーラルフレイル対策の啓発を行った。

事業名等	健口体操の普及・啓発
今年度の取り組み（現状）	介護予防事業では、口腔機能向上のために、嚥下の仕組みから疾病予防のための効果的な健口体操の普及啓発を行う。 訪問型介護予防事業では、6回の訪問によりアセスメント及び評価を行い、個々に合った健口体操等の支援を実施する。 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業（お口のパトロール）では、口腔機能の低下が疑われる者が多い3小学校区（平洲・富木島・横須賀）に訪問し、アンケートにより健口体操等の支援をする。 自立支援ケース会議では、口腔の問題を解決するための一つとして効果的な健口体操を紹介する。
上半期の活動結果	介護予防事業では、16か所の団体中11の団体が定期的に健口体操を実施、未実施団体にも実施を働きかけた。 訪問型介護予防事業では、2人を訪問し、健口体操等を継続実施したことで、口の困りことが軽減し生活の質の向上に繋がった。 お口のパトロールでは、訪問対象196名中145名を訪問し、アンケートを実施し、歯科受診勧奨と健口体操の紹介をした。再訪問が必要な36名はこれから訪問する。 自立支援ケース会議では、介護に携わる関係者に知っていただきたい口腔機能について歯科医師と共に情報共有を行った。
課題と今後の取り組み	訪問等で健口体操の効果は実感していただいたが、一時的で生活に取り入れるなど継続が難しい。多職種でオーラルフレイルの予防の必要性も共有することで、対象者の健口体操の継続等を支援できるよう働きかけていく。

令和6年度 主な事業の概要

施策名	4-2-① 体を動かすことの楽しさを知る機会を増やす
令和5年度の施策評価	健康づくりでウォーキングなどの運動に取り組んでいる人の割合は基準値から順調な推移となったが、1回30分以上の運動を週2回以上1年以上実施している人の割合は、前年度から大幅に減少し基準値を割り込んだため、今後の推移を注視する。 運動に取り組んでいる人と、そうでない人との差が広がってきており、ウォーキングなどのイベントを通して、運動に取り組むためのきっかけづくりを継続的に行っていく。

事業名等	みんなでウォーキング推進事業
今年度の取り組み（現状）	各種団体（6団体）と連携して市内公園・緑道等を活用した9回のウォーキングイベントを開催する。 世代を問わず健康づくりを行うことができるイベントとするため、健康マイレージアプリのポイント付与対象としたり、企業との連携により従業員やその家族に対して啓発を図る。
上半期の活動結果	4月21日（日）春の健康ウォーキング 参加者 87名 5月11日（土）健康づくりのためのウォーキング 参加者 40名 6月23日（日）健康づくりウォーキング 雨天中止 令和元年度から通算して5回参加する毎にへいしゅうくんのオリジナルピンバッチをプレゼント。（実績 18名） 子どもにとまていぬグッズをプレゼント。（実績 9名）
課題と今後の取り組み	10月以降に6つのウォーキングイベントの実施を予定している。 主催団体により参加者数や年齢層に大きな差があり、リピーターを取り込んでいく必要がある。主催団体等によるノルディックポールの貸し出しやウォーキング後の健康測定会は好評のため、各イベントの特色をPRし周知を図る。

令和6年度 主な事業の概要

施策名	4-2-② 運動に取り組みやすい場を充実する
令和5年度の施策評価	市内の施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じている人の割合及び運動ステーションの数と利用者数は基準値から順調な推移となっている。 猛暑の影響から、特に夏場は屋外で体を動かすことが困難になってきており、室内で運動できる場所の選択肢として、運動ステーションや民間スポーツ施設利用補助、公民館・市民館の各種運動教室などの周知を行っていく。

事業名等	高齢者の民間スポーツ施設利用補助																				
今年度の取り組み（現状）	コパンスポーツクラブ東海において、65歳以上の市民の利用に対して補助することで、健康増進や体力づくりに取り組むことができるようきっかけづくり、及び継続的な取り組みへの支援を連携して推進する。																				
上半期の活動結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者</td><td>81人</td><td>81人</td><td>82人</td><td>83人</td><td>75人</td><td>84人</td></tr> </tbody> </table>								4月	5月	6月	7月	8月	9月	利用者	81人	81人	82人	83人	75人	84人
	4月	5月	6月	7月	8月	9月															
利用者	81人	81人	82人	83人	75人	84人															
また、年度末年齢が65歳になる高齢者を対象として施設を1カ月無料で利用できる通知を7月中旬に発送した。																					
課題と今後の取り組み	民間スポーツ施設利用補助の利用者が、前年度と比較し各月1～2割増加しており、猛暑の影響から室内で体を動かす人が増えたものとする。外気温が下がってきた時期の動向を今度注視していく。 民間スポーツ施設利用補助を通じて、室内で実施できる健康づくりの一つの選択肢として、年度末年齢が65歳になる高齢者を対象とした利用案内等の周知を継続し、体を動かすきっかけとなるようPRしていく。																				

令和6年度 主な事業の概要

施策名	4-2-③ グループ（企業・団体）活動を推進する
令和5年度の施策評価	市と連携して健康づくりに取り組む市民団体・企業数は順調に推移しているが、1年間に地域や会社のウォーキングイベントや健康教室に参加したことがある人の割合は、令和2年以降基準値を下回っている。 健康づくりに取り組む市民団体については、担い手の高齢化や後継者不足から存続が危ぶまれている。一方で事業所には健康経営が広がりを見せており、健康づくりに関する活動が行われているが、取り組みへの参加には個人差が生じている。

事業名等	とうかい健康チャレンジ事業（マイレージ事業）
今年度の取り組み（現状）	県のあいち健康マイレージ事業に参加し、運動や食生活を始めとした健康的な取り組みを行うとポイントが付与されるアプリを活用した取組を実施する。
上半期の活動結果	企業と連携した健康づくり支援事業時の啓発だけでなく、高齢者に対する利用啓発を実施した結果、9月30日時点で登録者数1,776人、うち200ポイント以上取得したマイカ獲得者数162人であった。
課題と今後の取り組み	本アプリは壮年期層を中心とした企業等で働く従業員の健康づくりを支援するために県が導入したものであることから、引き続きこれまで健康づくりの取り組みを行っていなかった方や、いきいき元気キャンペーン事業を通じて活用を促し、運動や健康づくりに対するきっかけとしてもらえるように利用の拡大を図る。

令和6年度 主な事業の概要

施策名	4-3-① 適量やバランスを意識する機会を増やす
令和5年度の施策評価	健康づくりで食事の量やバランスなど食生活の改善に取り組んでいる人の割合及び食生活ステーションの数および提供メニュー数は基準値から順調に推移した。 今後は食事量やバランスを意識できる機会を作るため、通いの場等で配食サービスを活用していく。また、料理掲載サイトや広報にてレシピを掲載し、野菜を使った料理などの啓発を継続し、食に興味関心を高め、普段食べている食事を意識する機会を増やしていく。

事業名等	トマト健康プロジェクト事業
今年度の取り組み（現状）	今年度はカゴメ株式会社との「トマト de 健康まちづくり協定」締結から10周年となるため、年間を通じて連携を強固にしてトマト健康プロジェクトの各種事業を展開し、野菜を摂取するきっかけとしてもらう。
上半期の活動結果	4月には協定締結10周年記念式典を実施した。また、市政55周年記念事業として、「トマト de 健康レシピコンテスト」を開催し、オムライス及びトマト給食メニューを募集し、合計39点の応募があった。 6月に1小学校でカゴメDVDを活用した授業、9月に1小学校でトマトに関する出前授業を実施した。 7月から8月まで実施したトマト de 健康フェスティバルでは、971人がスタンプラリーを達成した。マックスバリュ東海店では、共同開発した「トマトを味わう！カレーおにぎり弁当」を7月に、「トマト彩りカレープレート」を8月にトマト de 健康フェスティバル対象商品として期間限定で販売した。
課題と今後の取り組み	トマトジュースの出る蛇口や、食生活改善推進員によるオムライス教室等を通じて、事業のPRを図る。トマト de 健康フェスティバル参加店舗へ食生活ステーションの認定を働きかけて拡大を図るとともに、スーパーマーケットとの連携、企業を対象とした健康づくり出前講座等を実施し、市民の食生活の改善を促していく。

令和6年度 主な事業の概要

施策名	4-4-① 交流の場・活動の場を充実する
令和5年度の施策評価	地域活動を身近に感じている人は、昨年度よりは改善されてはいるものの、コロナ禍を経て市民の意識上は回復していない。また、困ったときに悩みを相談できる人が身近にいる人の割合は昨年度より上昇、基準値からは横ばいのため、引き続き人とのつながりが持てる地域づくりや相談につながるような交流の場づくりの工夫が必要である。そして、必要な情報を必要な人が得られるよう、焦点をしばった情報発信も必要である。

事業名等	いきいき百歳体操の普及を通じた自主活動グループ支援
今年度の取り組み（現状）	既存団体へ専門職（栄養士、歯科衛生士、保健師等）を派遣することにより自主活動の活性化を図っている。身近な場所で活動に参加できるよう新たな活動の場を創出していく。また、世話人や参加者の高齢化により活動が難しくなっているグループもあるため、新規のサポーターを養成する。
上半期の活動結果	・自主活動グループへの専門職派遣 体力測定 31 か所 歯科指導 16 か所 栄養指導 22 か所 IT サポーター 8 回 ・新規グループ立ち上げ 1 件 ・新規サポーター登録 下半期に実施
課題と今後の取り組み	通いの場への専門職派遣の中で、健康支援型配食サービス事業を実施している。低栄養予防の栄養指導を目的としているが、独居の参加者にとって、普段ない仲間との食事の機会ができることを楽しみに積極的に参加され、活動の活性化が図れている。一方、参加者の高齢化により、身体や認知機能の問題で活動の場まで来所することが困難な人も一部あり、グループによっては参加者が減り活動は縮小しているところもある。高齢者が継続して社会参加できるよう具体的な方策を進める。 高齢者も世代交代する中、興味関心の変化も考えられ、従来の通いの場以外にも多様な活動の場が求められる。高齢者支援課はじめ庁内関係各課や社会福祉協議会等関係団体とも協議しつつ、身近な場所で、公共施設に限らず、新規の活動の場を整備していくと同時に担い手の育成も進めていく。

令和6年度 主な事業の概要

施策名	4-5-① 規則正しい生活習慣を身につける
令和5年度の施策評価	各種事業において情報提供や保健指導を実施してきており、指標は改善が続き、一定の成果が出ている。しかし、年齢が上昇すると就寝時間が遅くなる傾向は変わらず、今後も個別に合わせた家族の生活や育児について保健指導を行う必要がある。

事業名等	乳幼児健診等を通じた保健指導	
今年度の取り組み（現状）	乳幼児健診や育児相談等の機会に家庭毎の生活習慣を把握し、個々に応じた情報提供を行う。また、妊娠届出時や両親学級の機会を通じて、妊娠期から乳幼児期において規則正しい生活習慣について啓発を行う。	
上半期の活動結果	主な事業	受診者数
	4か月児健診（9月まで）	4 3 3 人
	1歳6か月児健診（9月まで）	4 4 5 人
	2歳児すくすく教室（9月まで）	4 4 3 人
	3歳歯科健診（9月まで）	4 3 0 人
	3歳医科健診（9月5日ㄮ迄）	3 9 6 人
	育児妊婦相談（9月まで）	8 2 人
課題と今後の取り組み	乳幼児の生活リズムは、親の生活リズム、仕事とのバランス、家事能力、価値観など、親の状況に影響を受けやすい。また、こどもの生活についての理解が薄い場合もあるため個々に合わせた必要性や具体的な実施方法について情報提供を行い、行動に移しやすい保健指導に取り組む。	

〈参考〉

第2次

東海市健康増進計画
いきいき元気推進プラン

令和5年度(2023年度)
評価シート



令和6年(2024年)10月
東海市 健康推進課

令和5年度(2023年度)施策評価シート

1 評価シートの位置付け

第2次東海市健康増進計画(平成26年度～令和5年度)の施策に基づき実施した事業や次年度以降の方向性等について、東海市健康づくり推進会議において確認を行い、当該年度の施策を評価したもの。

2 健康増進計画の目指す将来像

テーマ 「めざせ 健康寿命日本一」

キャッチフレーズ ～ いきいき元気なひと・つながり・まちづくり ～

目指す将来像

①ひと：毎日を楽しめる心と身体

自分の身体の健康状態に関心があり、健康的な生活を過ごしながら、いつまでもいきいきとした人生を送っている。

②つながり：笑顔でつながるふれあい

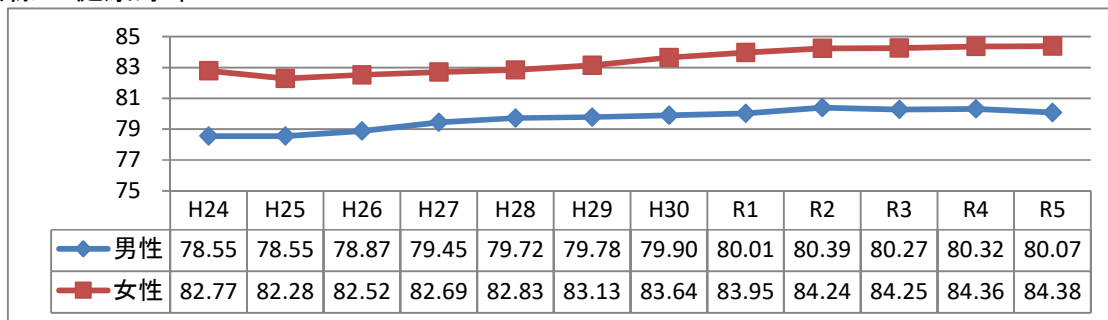
暮らしている地域でのつながりや、職場のつながりのなかで、楽しみながら健康づくりに取り組んでいる。

③まち：健康づくりに取り組みやすい社会環境

すべての市民が、自分に合った生活習慣のなかで、自然と健康づくりに取り組みやすい環境が整っている。

3 指標の推移

指標1：健康寿命



第3次 東海市健康増進計画

令和7年度（2025年度）～令和17年度（2035年度）

（素案）

令和7年（2025年）〇月

東海市

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

わが国は、生活環境の向上や医療技術の進歩等により、平均寿命は男女ともに延伸し、世界有数の長寿国となっています。その一方で、出生率の低下や高齢化率の上昇により少子高齢化が進んでいます。また、この急速な高齢化の進展や、不規則な食生活や運動不足等による生活習慣の変化等により、がんや循環器疾患等の生活習慣病の割合が増加するなど、疾病構造も変化してきています。

本市では、市民の健康づくりを推し進め、全ての市民が健康でいきいき元気に暮らせるよう、平成15年度（2003年度）から平成25年度（2013年度）までを計画期間とした「第1次東海市健康増進計画（いきいき元気プランとうかい）」

（以下「第1次計画」という。）を策定し、市民の健康づくりに関する施策に取り組んできました。また、平成26年度（2014年度）から開始した「第2次東海市健康増進計画（いきいき元気推進プラン）」（以下「第2次計画」という。）では、第1次計画の基本方針を継承し、「めざせ 健康寿命日本一」をテーマとして、生きがいがあり健康なまち東海市の実現を目指してきました。

近年においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外出自粛等による行動制限が長期間にわたり続いたことにより、生活様式や人との関わり方、社会構造に大きく影響を及ぼしました。

今後、人生100年時代を迎える中、社会が多様化・複雑化していく状況において、誰もがより元気で暮らしていくことができるよう、妊娠期から高齢期まで各世代のライフステージに応じた健康づくりの取り組みをさらに強化していくことが求められています。

これらのことを踏まえ、第2次計画が掲げている健康づくりの方向性を継承するとともに、国の「二十一世紀における第三次国民健康づくり運動（健康日本21（第三次）」（以下「健康日本21（第3次）」という。）や愛知県の「第3期健康日本21 あいち計画」（以下「第3期あいち計画」という。）、本市の「東海市総合計画」を勘案した「第3次東海市健康増進計画」（以下「本計画」という。）を策定しました。

(1) 国の動向

国は、健康増進法に基づき、国民の健康の増進の総合的な推進を図る基本方針として、令和6年度（2024年度）から令和17年度（2035年度）までの

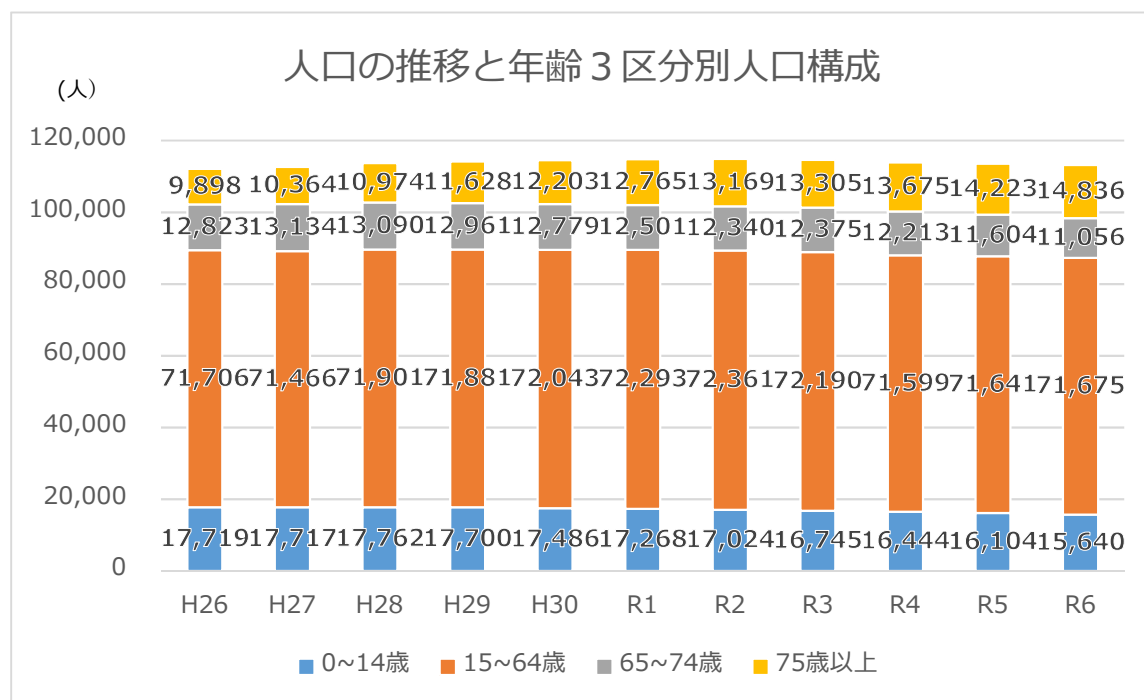
第2章 東海市の健康を取り巻く現状

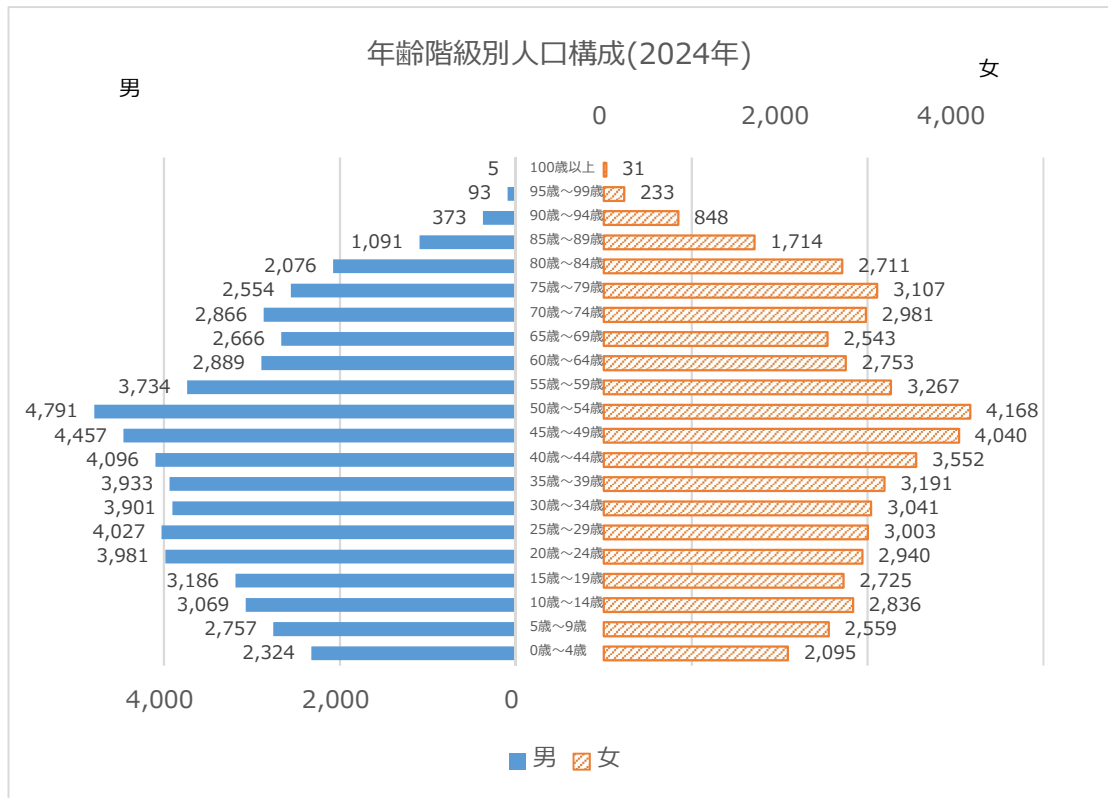
1 人口等の状況

(1) 人口の推移と人口構成の状況

本市の総人口は、市制施行から増加傾向で平成30年（2018年）には115,000人を超えましたが、近年は転出超過による社会減の傾向により、令和6年（2024年）4月現在では113,207人となり、緩やかな減少傾向が続いています。

また、年齢3区分別の人口構成は、年少人口（0～14歳）は減少している一方で、老年人口（65歳以上）は増加し、特に75歳以上の後期高齢者人口が増加しており、本市においても少子高齢化が進行しています。





出典：住民基本台帳

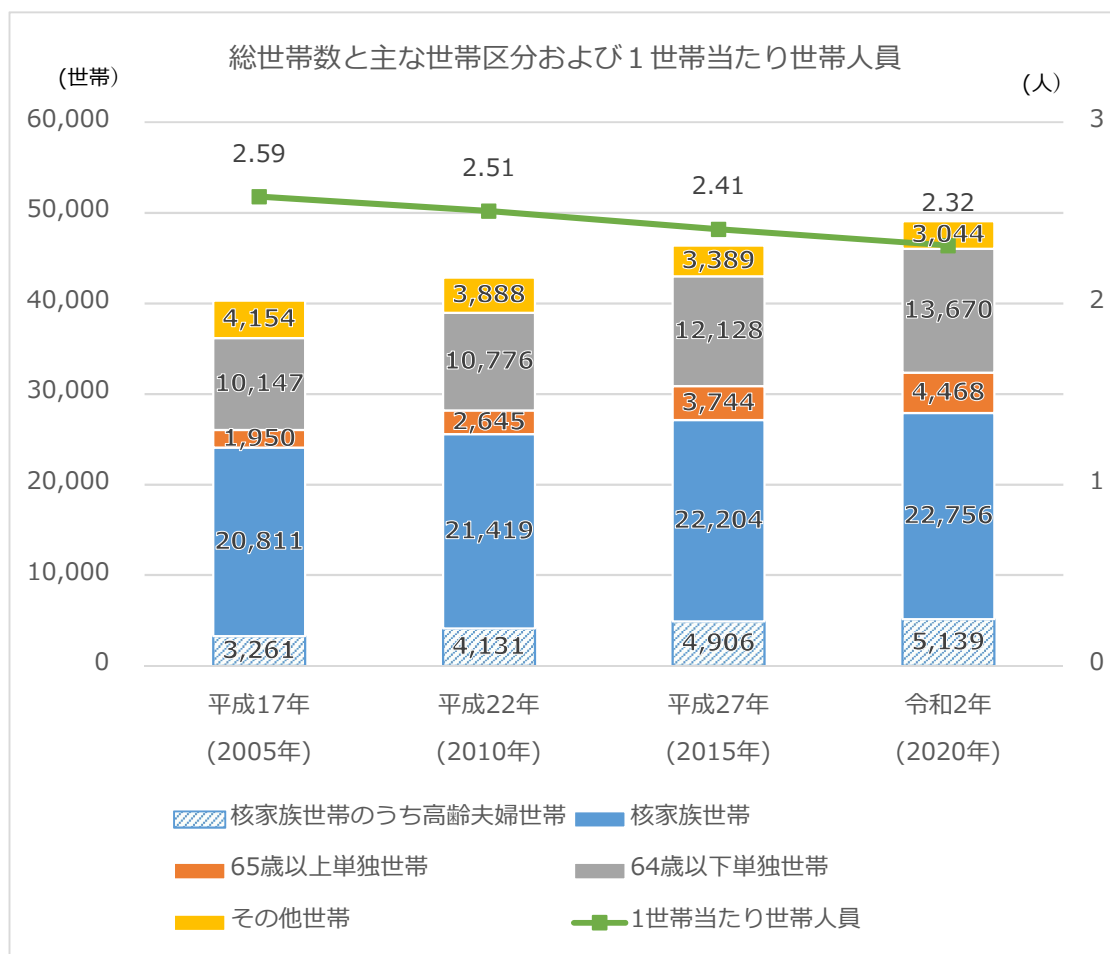
(2) 高齢化率の状況

高齢化率は、全国や愛知県平均と比較して低い値で推移していますが、年々増加しており高齢化が進んでいます。

(3) 世帯数・世帯構成の状況

総世帯数は増加している一方で、1世帯当たりの人数は減少し、令和2年（2020年）は2.23人となり、世帯規模が縮小しています。

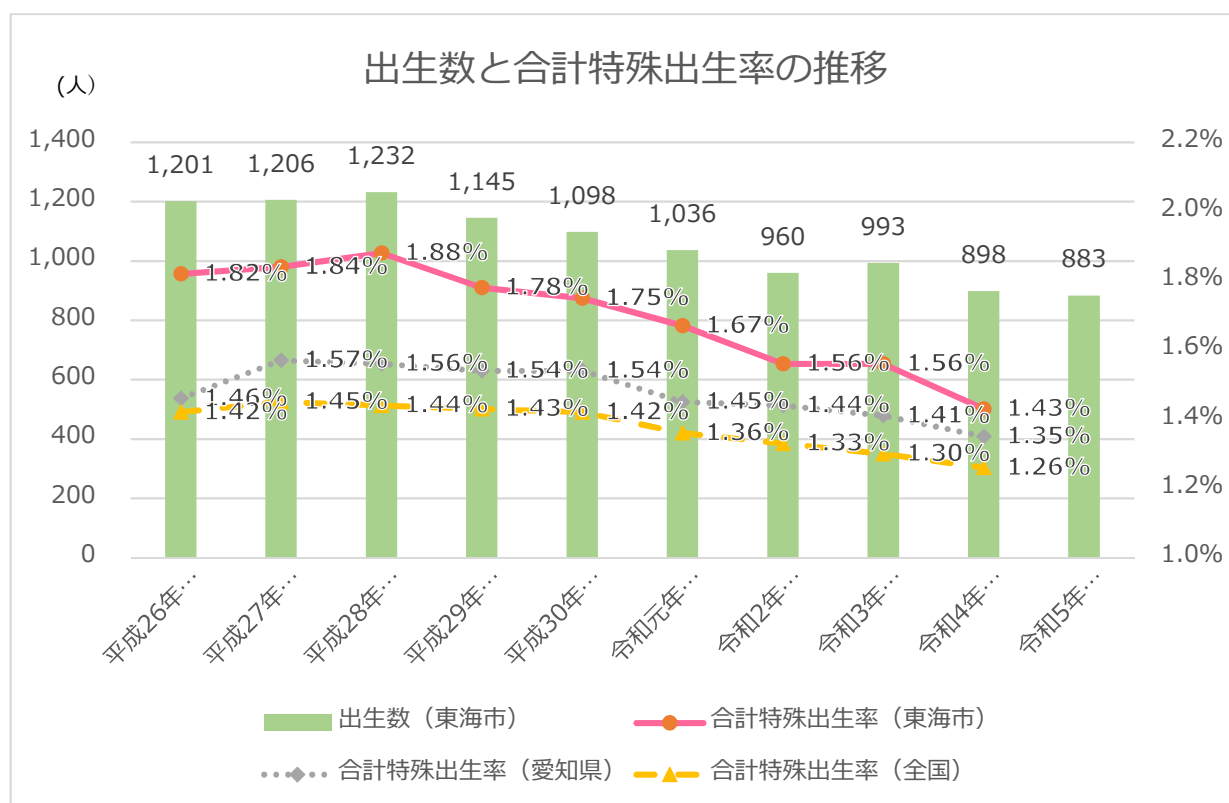
また、核家族世帯と単独世帯（一人暮らし世帯）が増加し、そのうち、高齢者のみの世帯は、核家族世帯と単独世帯で共に増加しています。



※ 高齢夫婦世帯：夫が65歳以上、妻が60歳以上の夫婦のみ世帯

出典：総務省 国勢調査

(4) 出生数・合計特殊出生率の状況

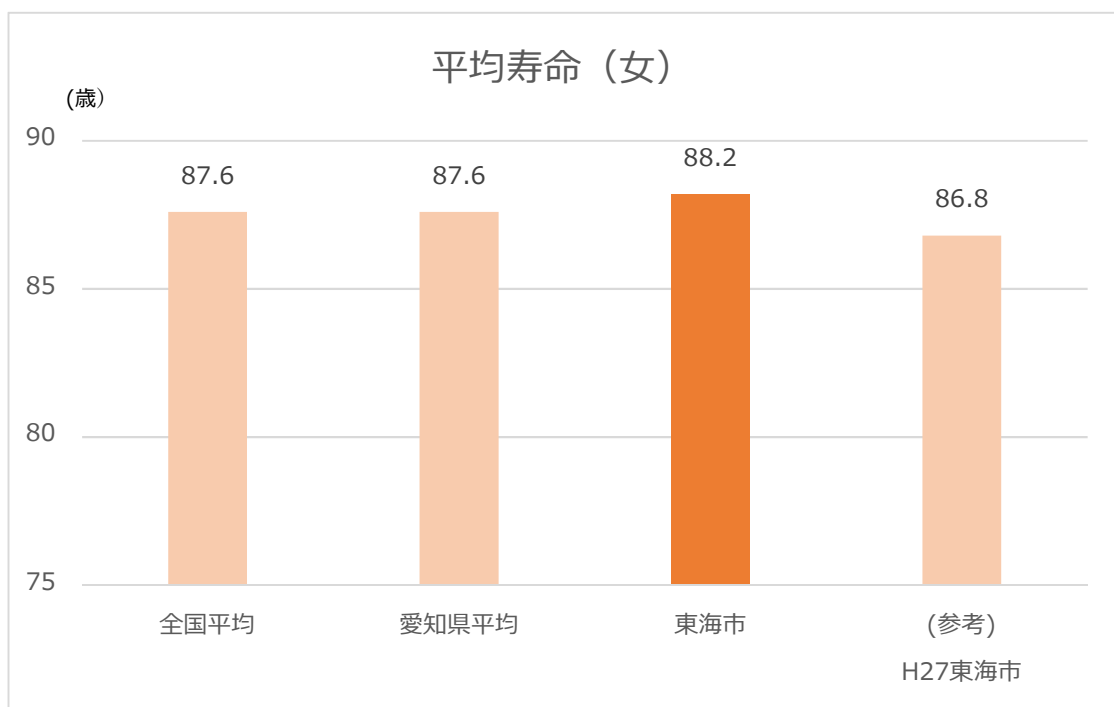
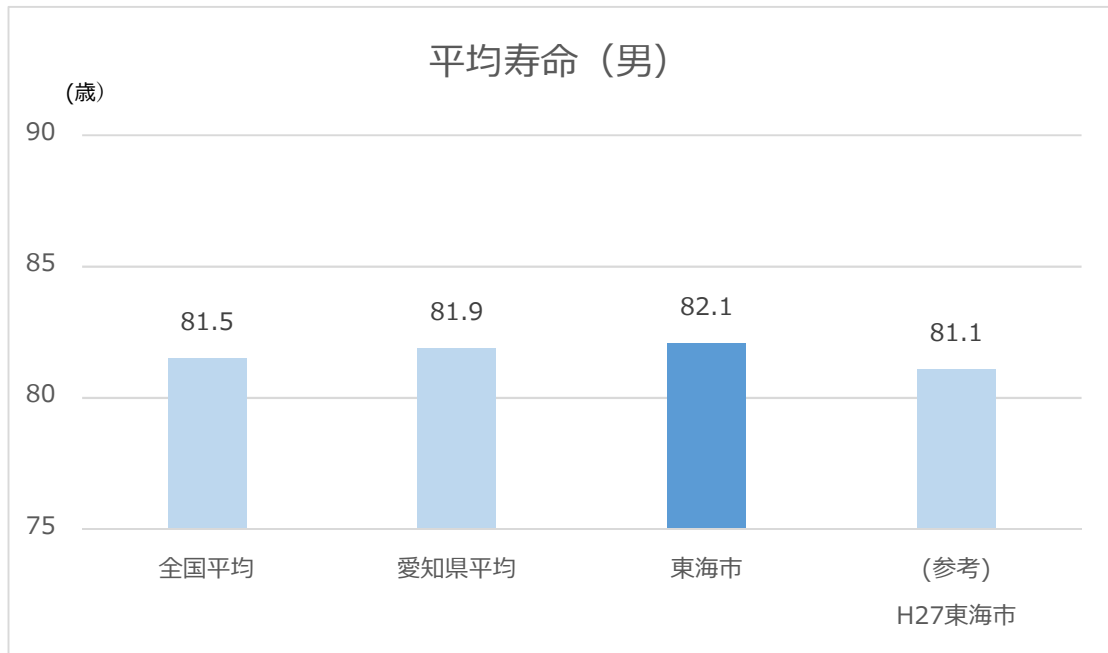


出典：愛知県衛生年報、あいちの人口、愛知県の人口動態統計、東海市の統計

2 平均寿命と健康寿命

(1) 平均寿命

令和5年（2023年）の本市の平均寿命は、男性が82.1歳、女性が88.2歳となっており、平成27年（2015年）と比較して、男性が1.0歳、女性が1.4歳長くなっています。また、全国や愛知県の平均と比較して、男女ともに長くなっています。

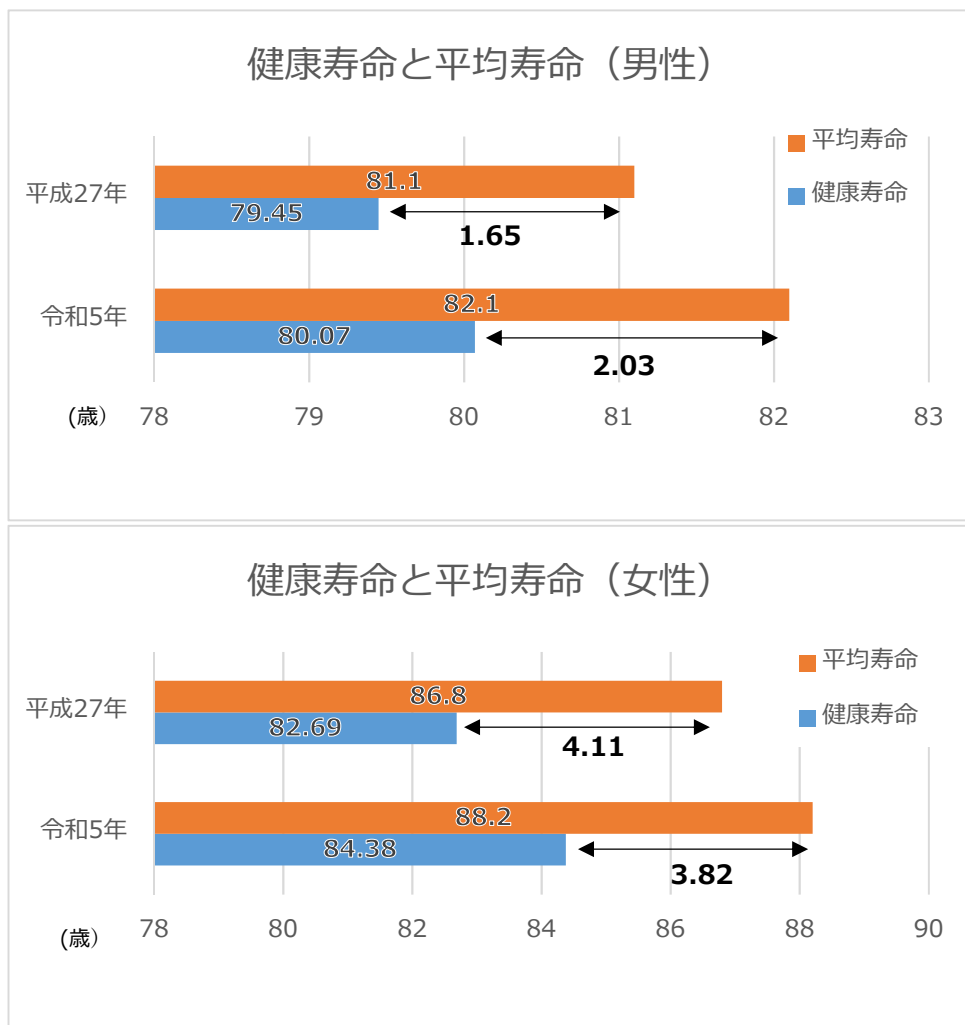


出典：国保データベースシステム

(2) 健康寿命

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間を示す「健康寿命」は、令和5年（2023年）で男性が80.07歳、女性が84.38歳となっており、平成27年（2015年）と比較して、男性が0.62歳、女性が1.69歳長くなっています。

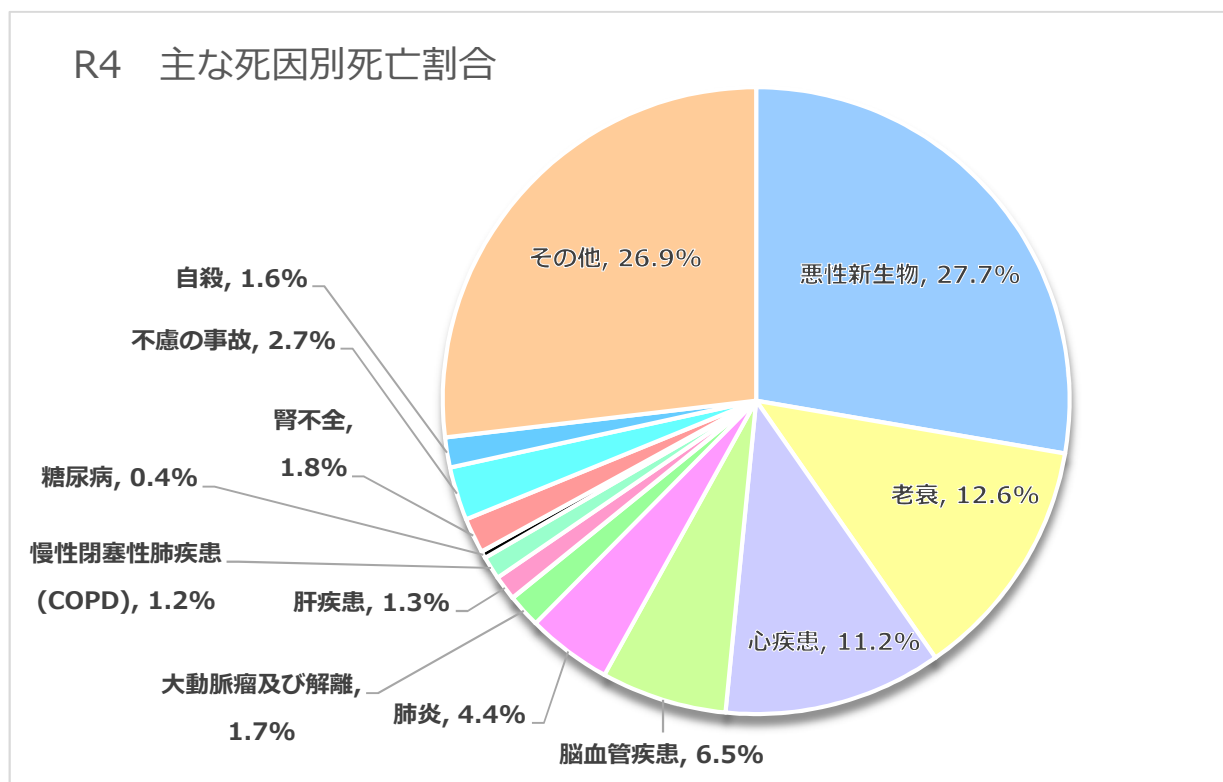
また、平均寿命と健康寿命の差（不健康期間）は、男性2.03年、女性3.82年となっており、平成27年（2015年）と比較して、女性は0.29歳短くなっています。これは、平均寿命の伸び以上に健康寿命が伸びたためです。一方、男性は0.38歳長くなり、健康寿命の伸び以上に平均寿命が伸びたためです。



3 死亡の状況

(1) 主要死因別の死亡割合の状況

本市の死因の主な原因は、悪性新生物（がん）によるものが最も多く、続いて、心疾患、老衰、脳血管疾患、肺炎となっており、生活習慣病の三大疾患である悪性新生物、心疾患、脳血管疾患が全体の約5割を占めています。



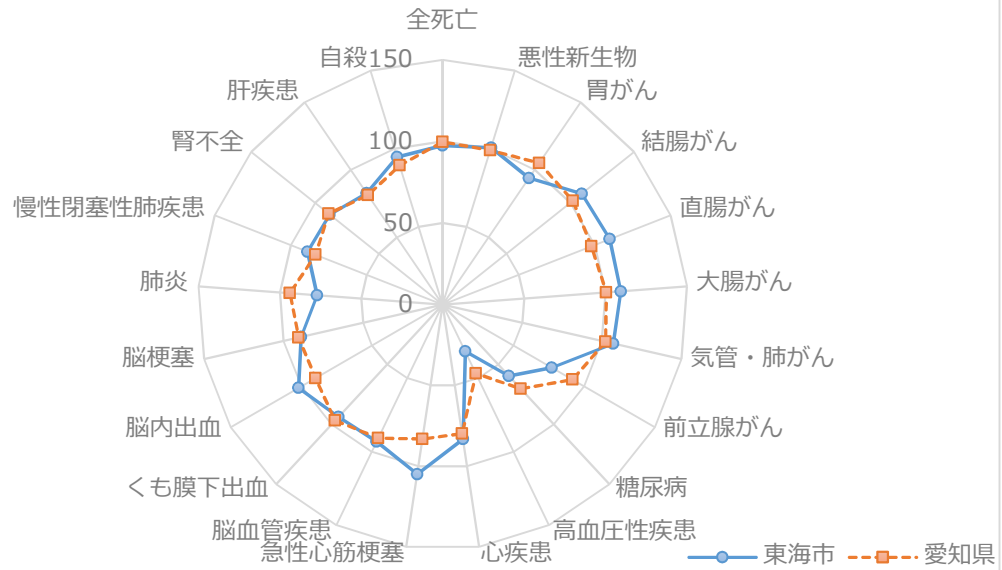
出典：愛知衛生年報

(2) 死因別の標準化死亡比の状況

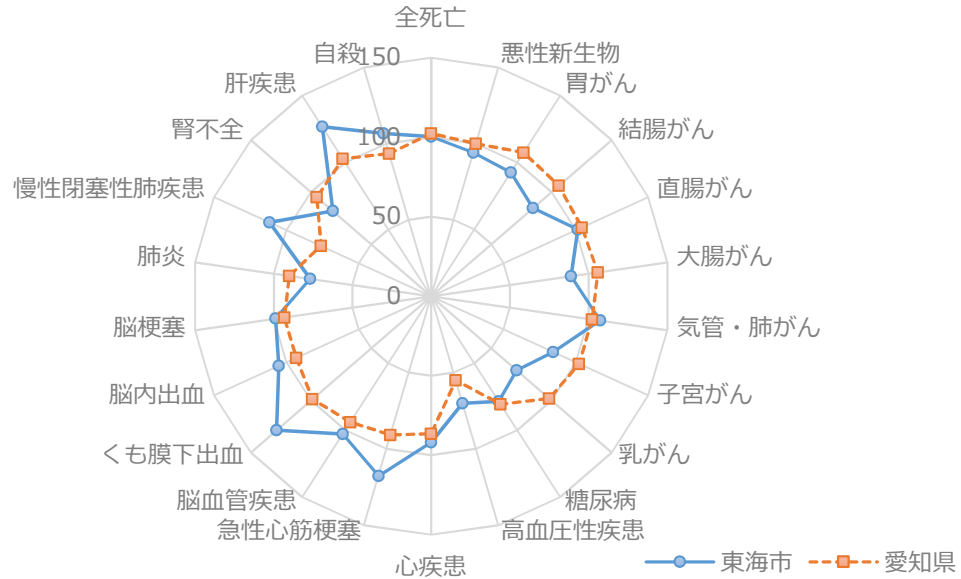
全国平均を100とした場合の本市の主要死因別の標準化死亡比は、男性では大腸がん、直腸がん、結腸がん、急性心筋梗塞、脳内出血が、全国や愛知県に比べ高くなっています。

また、女性では、くも膜下出血、急性心筋梗塞、慢性閉塞性肺疾患、肝疾患が高くなっています。

死因別標準化死亡比（男性）（平成30年～令和4年）



死因別標準化死亡比（女性）（平成30年～令和4年）



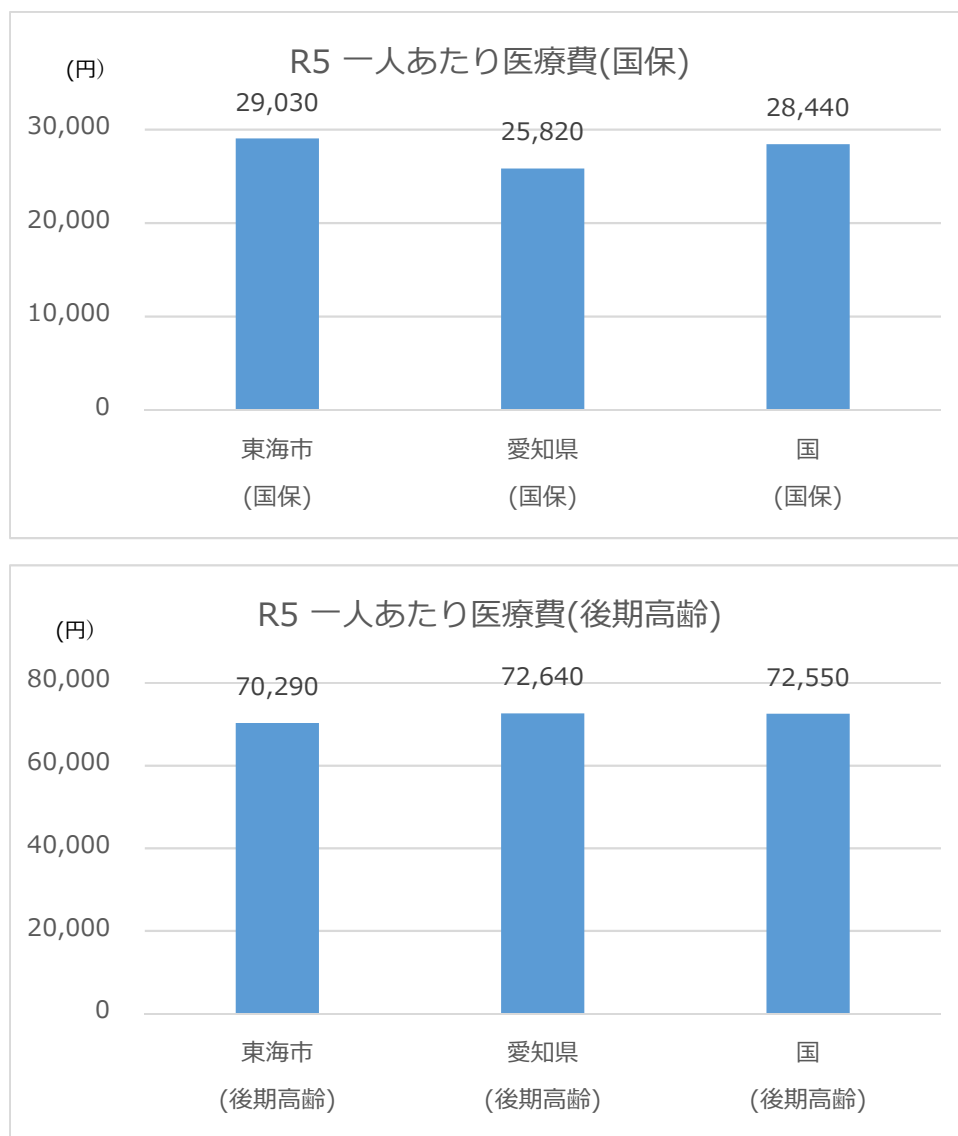
出典：愛知衛生研究所

4 医療費（国民健康保険・後期高齢者医療）の状況

(1) 1人当たりの医療費の状況

国民健康保険被保険者の1人当たりの医療費は、令和5年度（2023年度）が29,030円で、全国や愛知県平均と比較して高くなっています。

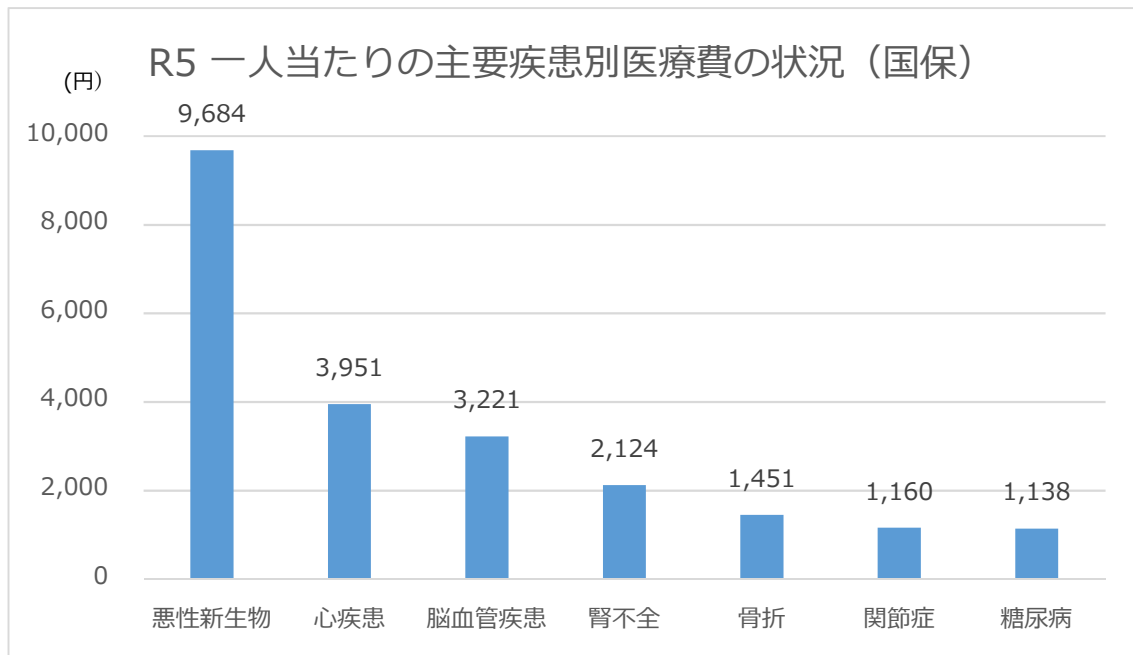
また、後期高齢者医療被保険者の1人当たりの医療費は、全国や愛知県平均と比べ低くなっています。



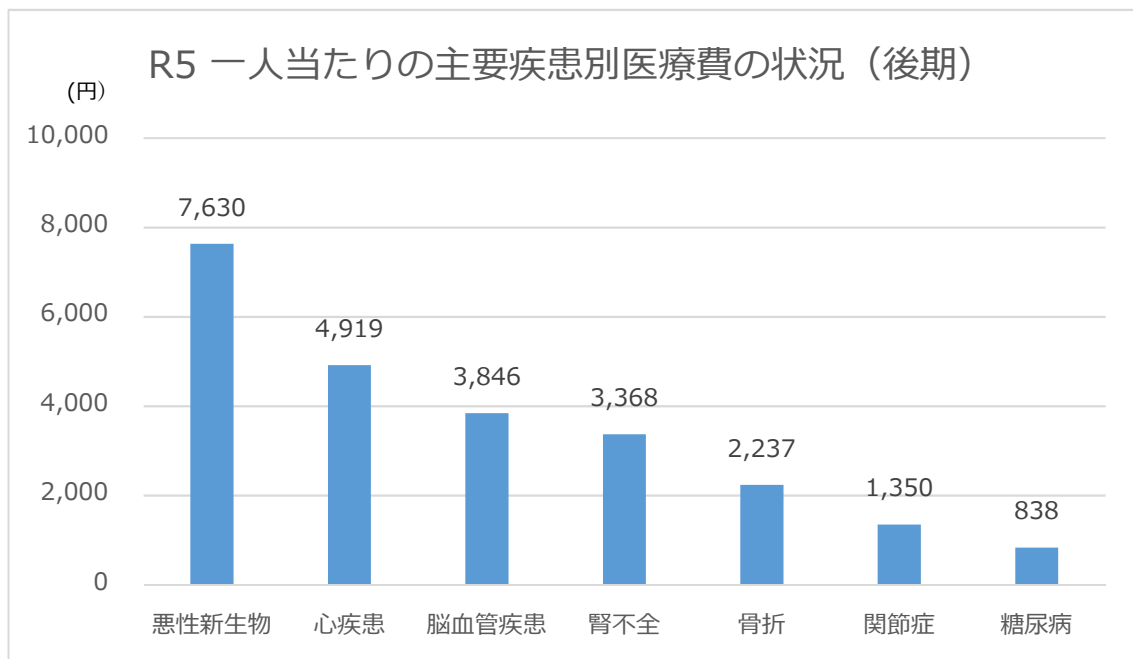
出典：国保データベースシステム

(2) 1人当たりの主要疾患別医療費の状況

国民健康保険被保険者の1件あたりの医療費は、人工透析に費用がかかるため腎不全が最も高くなっており、次いで悪性新生物となっています。入院では悪性新生物が最も高く、脳血管疾患、心疾患の順に高くなっています。



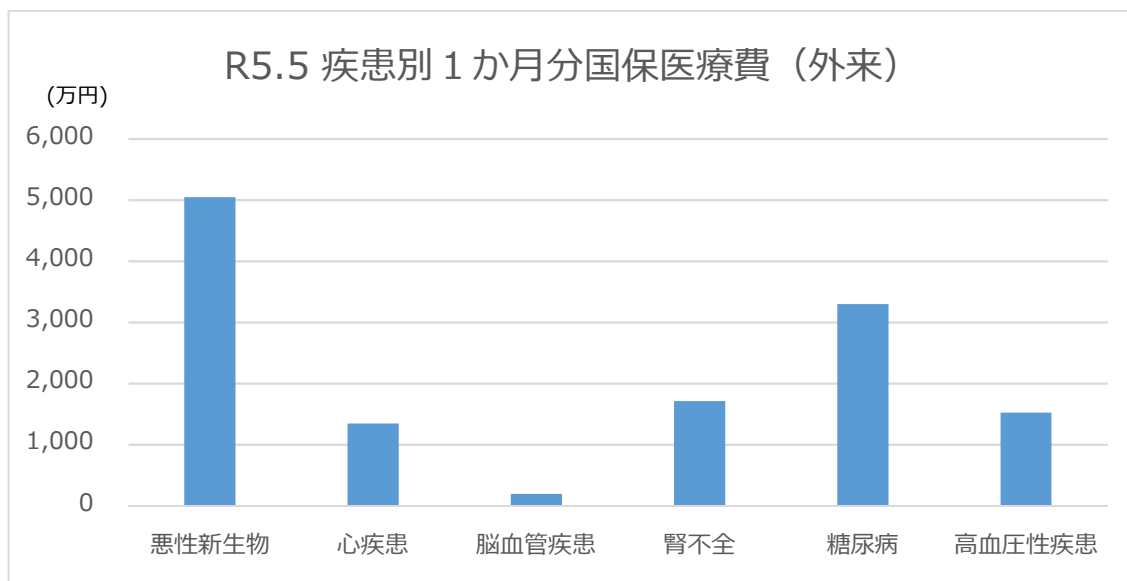
出典：国保データベースシステム



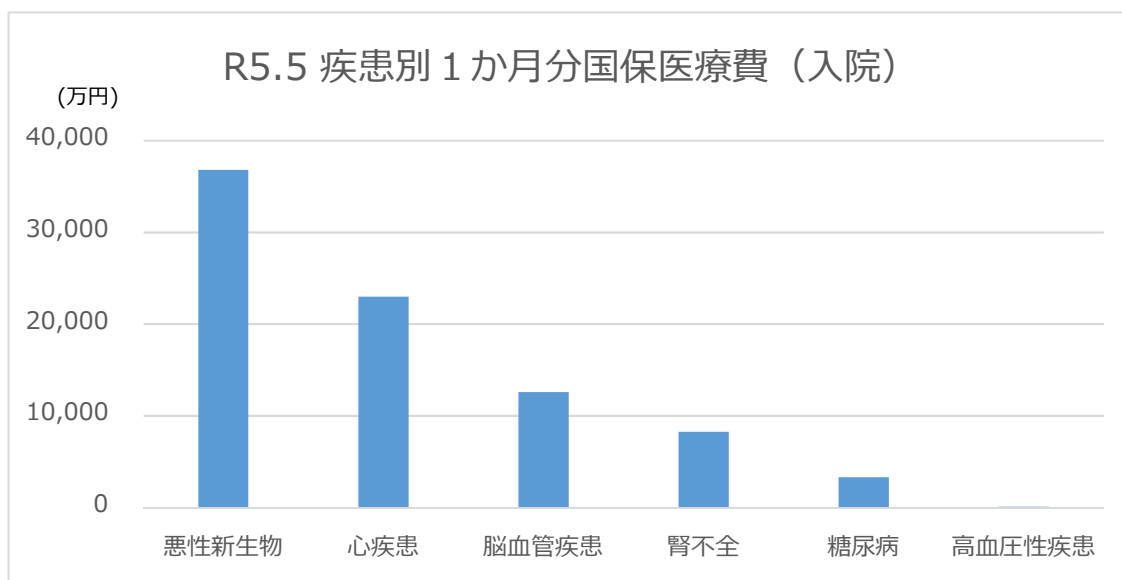
出典：国保データベースシステム

(3) 主要疾患別の医療費の状況

国民健康保険被保険者の1か月分の主要な疾患別医療費は、外来、入院ともに悪性新生物が最も高くなっており、続いて、外来では糖尿病や腎不全、入院では心疾患や脳血管疾患が高くなっています。



出典：国保データベースシステム

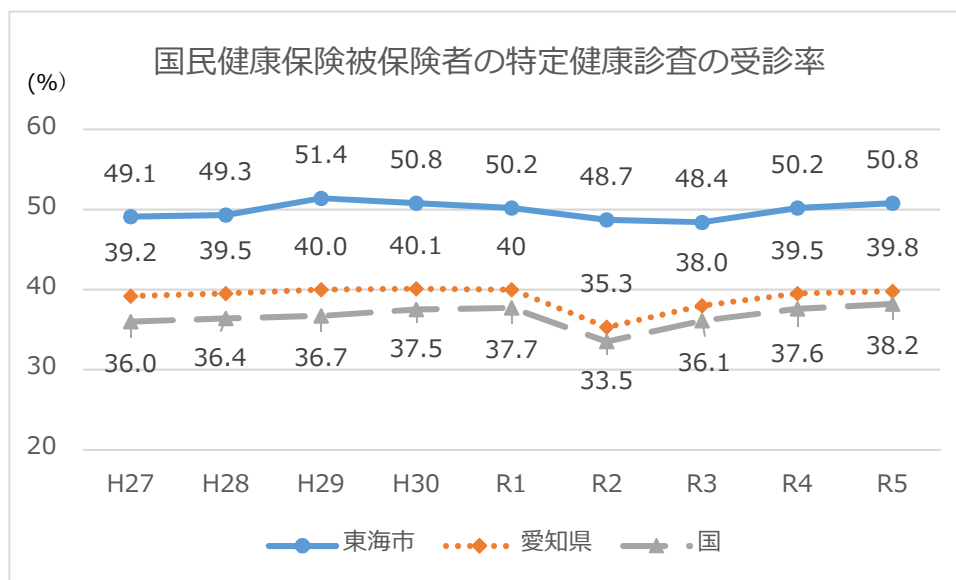


出典：国保データベースシステム

5 健康診査（検診）の状況

(1) 特定健康診査（国民健康保険）の受診率の状況

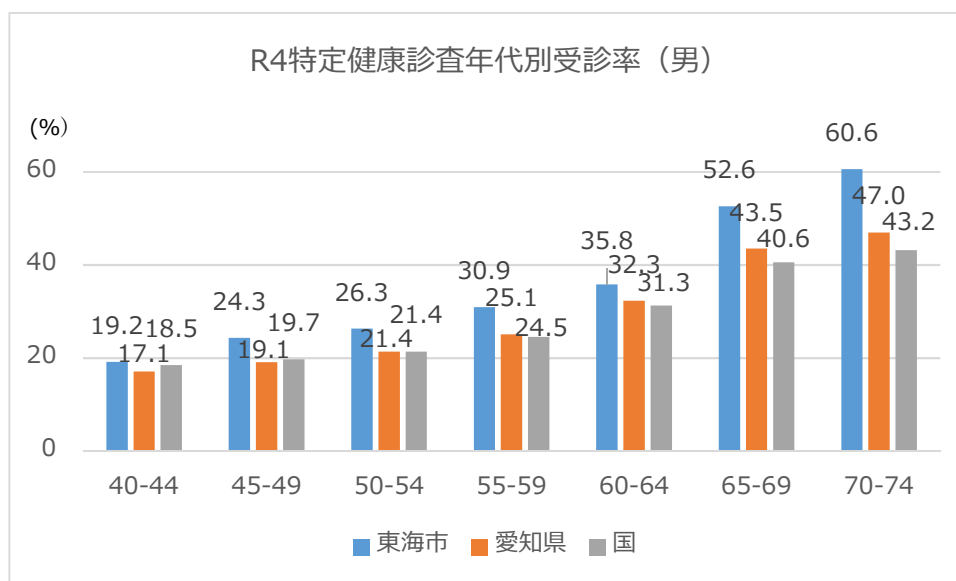
本市の令和5年度（2023年度）の国民健康保険被保険者の特定健診受診率は50.8%で、愛知県平均と比較すると11.0ポイント高くなっています。

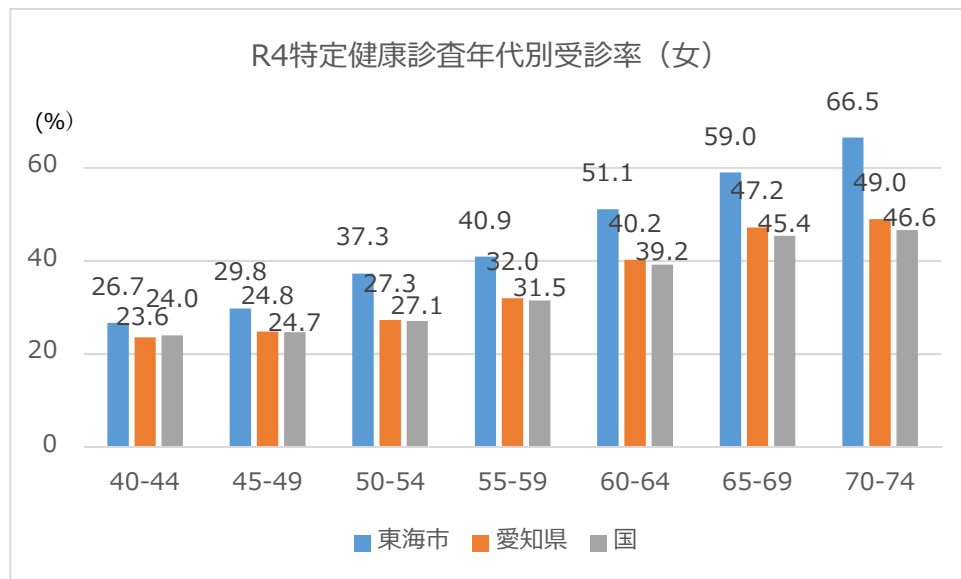


出典：国保データベースシステム

(2) 特定健康診査（国民健康保険）の年代別受診率の状況

本市の特定健康診査の年代別受診率は、各年代ともに全国や愛知県平均を上回っています。一方で、若い年代ほど受診率が低い傾向となっており、女性より男性の受診率が各年代で下回っています。





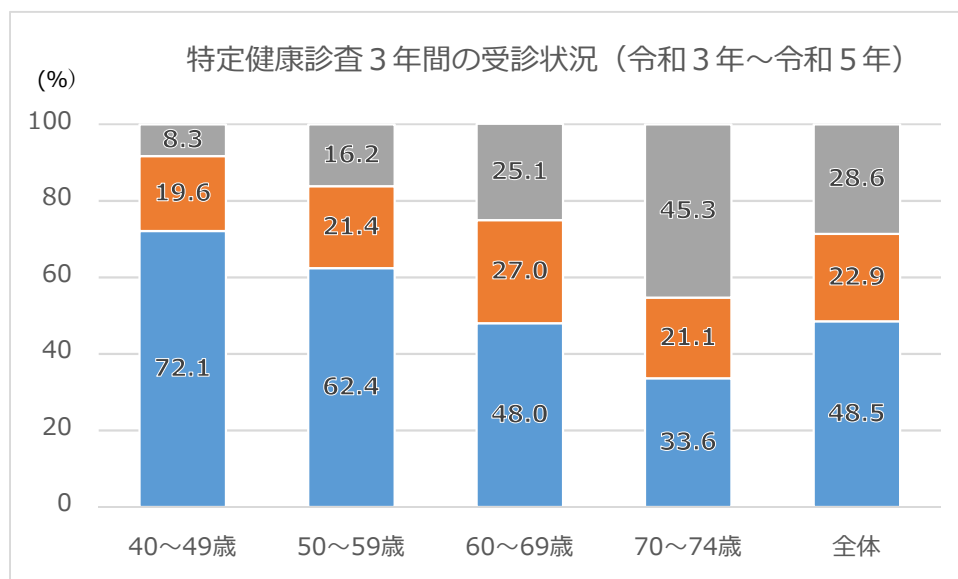
出典：国保データベースシステム（東海市・愛知県）

令和４年度国保特定健康診査・特定保健指導実施状況報告書（国）

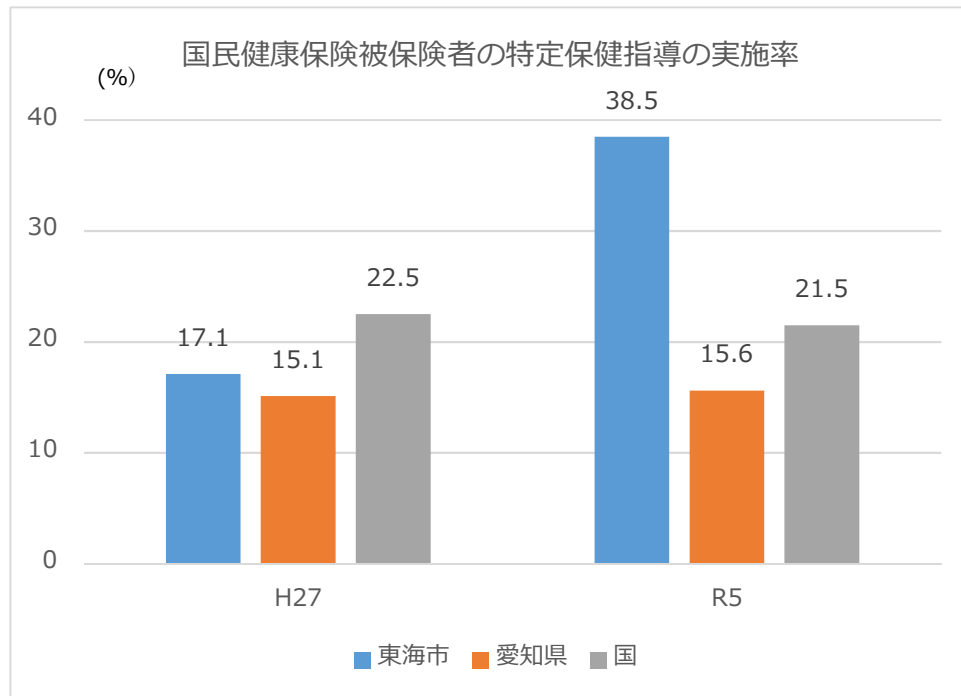
（３） 特定健康診査（国民健康保険）の受診頻度の状況

本市の国民健康保険被保険者の令和３年度（２０２１年度）から５年度（２０２３年度）までの３年間（３年間受診資格があった人）に、毎年特定健康診査を受診している人は、若い世代ほど低い傾向となっています。

特に、４０歳代と５０歳代は３年間１度も受診していない人が半数以上となっています。



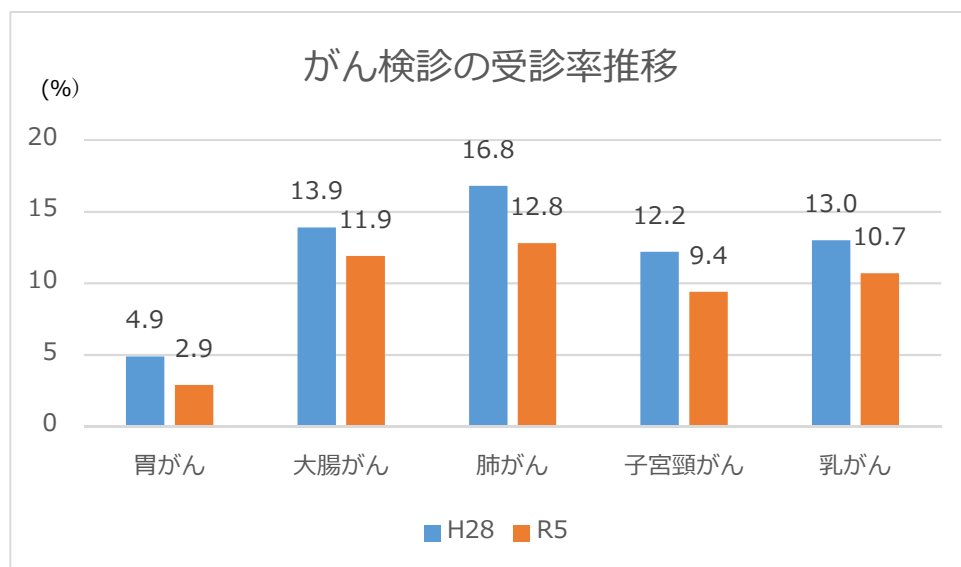
本市の令和５年度（２０２３年度）の国民健康保険被保険者の特定保健指導実施率は３８．５％で、愛知県平均と比較すると２２．９ポイント高くなっています。



出典：国保データベースシステム

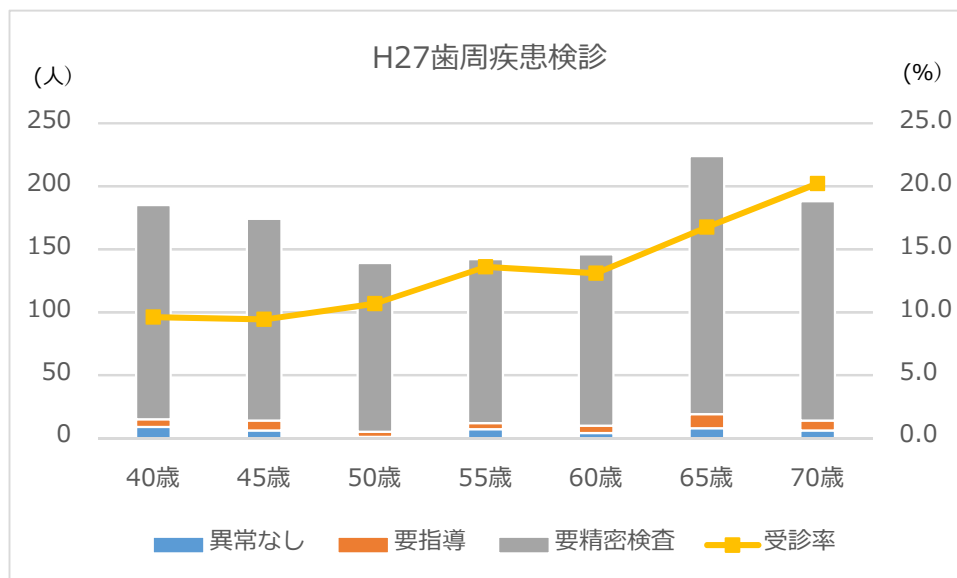
(5) がん検診の受診率の状況

本市の令和５年度（２０２３年度）の市がん検診（胃がん・大腸がん・肺がん・子宮頸がん・乳がん）受診率は、平成２８年と比べ低下が見られます。

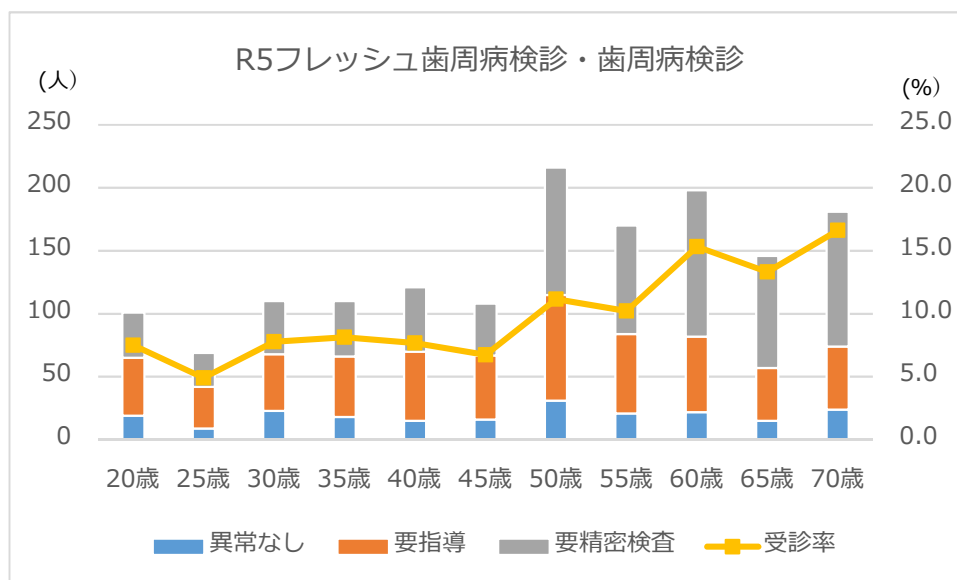


(6) 歯周病検診の受診率の状況

本市の令和5年度（2023年度）の歯周病検診の受診率は、45歳以下で10.0%を下回っており、平成27年度（2015年度）と比較して各年代ともに低下しています。検診結果内訳については、平成27年度（2015年度）と比較して要精密検査の割合が低下し、異常なし、要指導が増加しています。

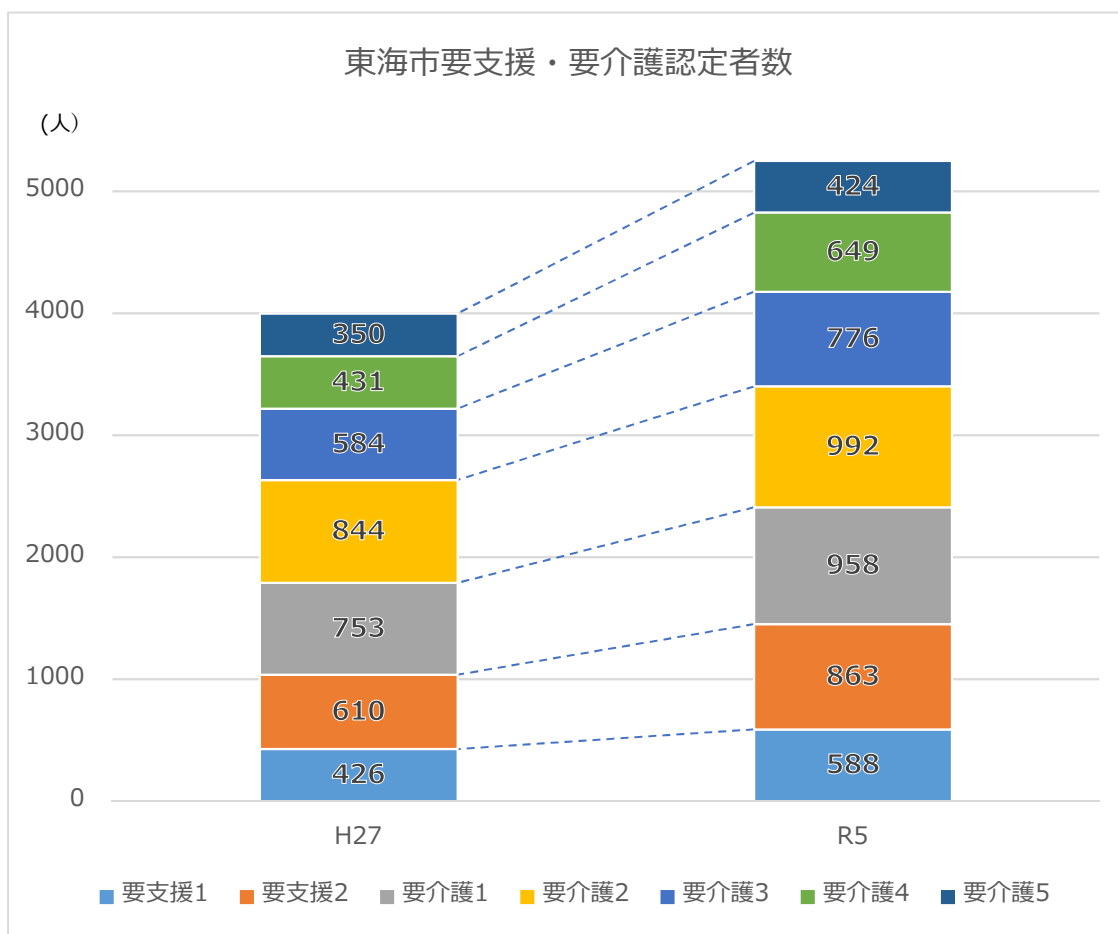


出典：東海市の保健福祉



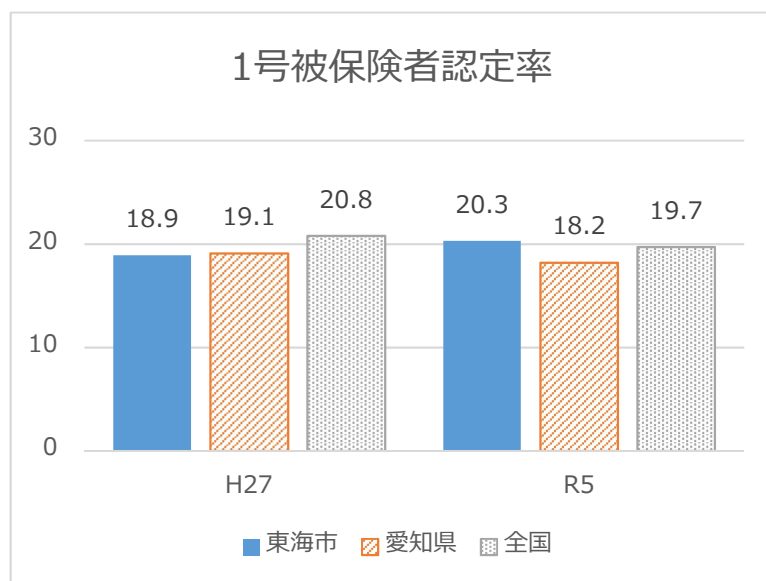
6 要支援・要介護認定者の状況

(1) 要支援・要介護認定者数の状況



出典：国保データベースシステム

(2) 要支援・要介護認定率の状況



出典：国保データベースシステム

る」の健康づくりの施策に取り組んできました。

10指標中、基準値より4指標が改善し、6指標が悪化しました。特に、「がん精密検査受診率」は、すべての部位の指標が悪化しており、今後において受診率の向上に向けさらなる取り組みが必要です。

指標名		方向性	基準値 (H24年度)	現状値 (R5年度)	進捗状況
年に1回は健康診断を受けている人の割合		↗	72.8%	78.3%	改善
生活習慣改善に取り組んでいる人の割合		↗	30.0%	29.6%	悪化
がん検診受診率	胃がん	↗	7.8%	6.4%	悪化
	乳がん	↗	11.4%	21.8%	改善
	子宮頸がん	↗	16.1%	19.7%	改善
がん精密検査受診率	胃がん	↗	81.7%	79.2%	悪化
	乳がん	↗	90.3%	82.7%	悪化
	子宮頸がん	↗	67.9%	50.6%	悪化
中学生の歯肉炎の罹患者率		↘	6.1%	3.7%	改善
8020達成者割合		↗	11.6%	15.1%	改善

(2) 運動・身体活動

推進項目の「運動・身体活動」では、「目標を持ち楽しみながら、体を動かすことが生活のリズムになっている」状態を目指し、「体を動かすことの楽しさを知る機会を増やす」、「運動に取り組みやすい場を充実する」、「グループ（企業・団体）活動を推進する」の健康づくりの施策に取り組んできました。

11指標中、基準値より7指標が改善し、1指標が維持、3指標が悪化しました。特に、「1回30分以上の運動を週2回以上1年以上実施している人の割合」が40歳以上の年代において悪化しており、今後において運動を習慣化する取り組みが必要です。

||
||
||

指標名		方向性	基準値 (H24 年度)	現状値 (R5 年度)	進捗状況
1 回 3 0 分以上の運動を週 2 回以上 1 年以上実施している人の割合	40～64 歳	↗	28.4%	15.2%	悪化
	65 歳以上	↗	49.3%	22.5%	悪化
市内の施設や環境が健康づくりに取り組みやすいと感じている人の割合	男性	↗	56.1%	62.8%	改善
	女性	↗	62.5%	64.6%	改善
運動ステーションの数と利用者数	箇所数	↗	4 箇所	5 箇所	改善
	利用者数	↗	108,822 人	138,970 人	改善
市と連携して健康づくりに取り組む市民団体数・企業数	市民団体数	↗	8 団体	8 団体	維持
	企業数	↗	8 社	9 社	改善
1 年間に地域や会社のウォーキングイベントや健康教室に参加したことのある人の割合		↗	12.4%	11.5%	悪化

※ 基準値のうち、「運動ステーションの利用者数」は平成 2 5 年度の数値、「市と連携して健康づくりに取り組む市民団体数・企業数」は平成 3 1 年度の数値

(3) 食生活

推進項目の「食生活」では、「家族や仲間と楽しみながら、自分に合った食生活を送っている」状態を目指し、「適量やバランスを意識する機会を増やす」の健康づくりの施策に取り組んできました。

3 指標中、すべての指標が基準値より改善しました。今後においても食生活に関する健康づくりの施策を継続的に取り組んでいく必要があります。

指標名		方向性	基準値 (H24 年度)	現状値 (R5 年度)	進捗状況

ルス感染症の感染拡大に伴う行動制限等により地域活動や市民活動が縮小したことが一因であると考えられます。も一部影響したものと考えられます。

指標名		方向性	基準値 (H24 年度)	現状値 (R5 年度)	進捗 状況
地域活動や市民活動を身近に感じている人の割合		↗	48.0%	43.9%	悪化
困った時に悩みを相談できる人が 身近にいる人の割合	男性	↗	75.1%	81.7%	改善
	女性	↗	90.7%	91.9%	改善

(5) 次世代の健康

推進項目の「次世代の健康」では、「規則正しい生活が身につき、健やかに育っている」状態を目指し、「規則正しい生活習慣を身につける」の健康づくりの施策に取り組んできました。

4 指標中、すべての指標が基準値より改善しました。今後においても引き続き次世代の健康に向けた取り組みが必要です。

指標名（次世代の健康）		方向性	基準値 (H24 年度)	現状値 (R5 年度)	進捗 状況
午後 9 時前に就寝する幼児の割合	1 歳 6 か月	↗	28.4%	45.1%	改善
	3 歳	↗	25.9%	27.7%	改善
朝食を食べている幼児の割合	1 歳 6 か月	↗	95.3%	97.2%	改善
	3 歳	↗	94.8%	96.5%	改善

持・向上など高齢者の介護予防につながることなど、全身の健康を保つ観点からも、乳幼児期から高齢期までの歯と口の健康づくりに取り組んでいく必要があります。

(5) 将来を見据えた健康づくりの推進

生涯にわたって、健康でいきいきとした生活を送るためには、子どもから高齢者までの各ライフステージで異なる健康課題へ適切に対応するとともに、子どもの頃からの健康づくりが重要です。

そのため、それぞれのライフステージに対応した健康づくりの取り組みや、子どもから高齢者に至るまでの生涯を経時的に捉えた健康づくりの取り組みを進める必要があります。

第3章 計画の基本的な考え方

第4章 健康づくりの取組

